

2021年8月1日

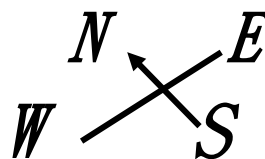
第327号

藤 沢

エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議

(略称) 藤沢エコネット



主
な
記
事

- ・身近な自然観察「イソヒヨドリの巣立ち」
- ・あと4年 未来を守れるのは今
- ・「コロナ危機と気候危機」
- ・オリンピック開催とコロナ ・放射能測定値

<http://econet2015.sakura.ne.jp>

事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳

☎ / F A X 0466-87-4922

戦後76年被爆国日本は今・・・

昭和20年8月6日広島、9日長崎に原爆投下により当時の死者数は合計当年12月末迄で21万人を越えました。第2次世界大戦は原爆投下により終結を見たのです。その後も後遺症に苦しみながら多くの人がこの世を去りました。

先日7月26日に政府は「黒い雨」訴訟は上告断念と発表、永年苦痛の思いをしてきた被爆者に救済の一筋の光がさした瞬間でした。原爆投下時、今の広島市外北部に疎開していた私は疎開先自宅の庭でもくもくと変化していく黒紫色の雲間からポツポツと降ってきた黒い雨が Y シャツの白を黒く染めた恐怖の思い出は小学3年生の忘れられない出来事だったのです。

世界に目を移せば核拡散防止条約再検討会議も何故か延期になり、核兵器禁止条約も今年1月22日に多くの国の賛同を得て発効したにもかかわらず、非保有国は軍拡阻止へ結束を強めても、進展のない核保有国9か国、むしろ核兵器製造維持に約7兆9千億円を投じ年々増加している(核兵器廃絶国際キャンペーン調べ)。日本国は被爆国として国際社会の先頭に立って今の構図を変えていかなければならないのに、アメリカの核の傘の下で守られているのを理由に動こうとしない政府。この矛盾が被爆者や反戦運動、平和運動への最大のブレーキとなっています。

それでも日本では被団協(日本原水爆被害者団体協議会)を中心に被爆者国際署名は1,370万2,345人分を集めて国連への提出がなされました。

日本を含め世界はコロナ禍で今大変な状態の最中、延ばしてきたスポーツの祭典、東京オリンピックが開催されました。選手の皆様は、体調を維持しながら平和の祭典を成功させるべき関係者の努力を感じながら、ウイルスとの二重の戦いをしています。

人間社会の放漫な考えを是正すべき警告として、コロナというウイルスと人間との戦いの中で重大な気付きの欠如を神は今、発しているように思えてならないのです…。

(被爆者 埴下雅美)



6/10 「あと4年 未来を守れるのは今」
市役所前で訴え (本文2ページ)

『あと4年、未来を守れるのは今』

今年2月、藤沢市は気候非常事態宣言を表明した。しかし、その事を一体何人の市民が知っているだろうか。6月10日そんな思いを胸に、藤沢市役所前で温室効果ガス排出削減を訴える街頭活動を行った。

子ども達は、ビラ配りに奮闘。共同代表の青柳さんから始まり、私達も初めてマイクを持った。

今行動しないと子ども達に未来がありません、藤沢市に気候非常事態宣言が出ています、一緒に地球の事を考えませんか。いろいろ声をかける。もう間に合わないよ、日本はやることをやってるとの声が帰ってくる。若者達をはじめ、多くの人々の無関心に私は初めて直面した。

藤沢市気候非常事態宣言は市民の耳には届いていないと確信した。今、行政は大規模な社会変革をすべき時に来ている。

ビラ配り、メッセージボードを作成してスタンディングに参加した子どもたち。小さな環境活動家達の声がどうか届きますように。(益永由紀)

『子どもたちに未来を残したい』

2才の娘を連れて、6月10日藤沢市役所前の街頭活動に参加した。昨今、環境問題に熱心な方々とのご縁があって、「タイムリミットはあと4年」という科学的知見を知り、複雑な思いで受け止めている。

あと4年ということは、娘は年長。そんな幼い子ども



にも「もう温暖化は止められない」ということを私は告げなくてはいけないのか？ 巷でよく聞く「人生100年時代」が、私たちやその次の世代には夢の話のように聞こえる。気候変動は、大規模災害や食糧難などを引き起こす生活に直結した問題だ。温暖化がこのまま進めば、社会は野蠻状態に陥り、今の生活水準とはかけ離れた、想像もしたくないような社会が立ち現れてくるだろう。そのことを、一人でも多くの市民に知ってほしい。私も無力感に襲われたり、悲観的

〈脱炭素都市ふじさわをめざして〉

になることがあるが、例えばハチドリのひとしずくだとしても現実を直視して活動していきたい。

子どもたちに未来を残すために。(ほったゆみ)

コロナ危機と気候危機

6月13日藤沢エコネット総会を記念して「コロナ危機と気候危機」と題して講演が行われた。

2つの危機は、人間が引き起こした結果であり、人間の力で解決しなければならない課題である。そのためには科学的根拠に基づく解決策を地球規模で取り組む必要があり、国際的な連帯が不可欠である。

なぜ 新型コロナウイルスのパンデミック (世界的な流行) が起きたのか？

ウイルスには細胞がないので、単独では存在できないが、他の生物(ヒトの体など)に侵入し、その細胞の中に入って自分のコピーを作らせその細胞を破裂させ、たくさんのウイルスが飛び出し、他の細胞でウイルスが増殖する。コピーをつくるために、核酸としてDNAかRNAのいずれかをもち、動物・植物・細菌を宿主とし、その作られる過程を利用して増殖する過程で変異する。

遺伝子の変異とは、コピーされた内容が元の情報から変化することで全ての生物で起きていて生物が進化する原動力である。ウイルスに限らずすべての生物は生きていく過程で、遺伝子を(一定の時間間隔で)変化させている。その結果、新しい環境に置かれた時、その環境に適応することができたものが生き残る。ウイルスは宿主である生物に侵入すると、その生物体内の環境に適応するように変異する。つまり異なる宿主を渡り歩く度に遺伝子変異を起こす。

ウイルスは単純な構造なので変異すると違った種類の新種のウイルスになるので、変異株と呼ぶ。つまり、たくさんの変異株をつくり、新しい環境になった時に最も適した株(宿主を殺さずに共に進化する株)が生き残り、ここまで進化してきた。ヒトも含めた多細胞生物では、一部の細胞の遺伝子の変異してもその種が進化するには長い年月が必要になるが、ウイルスは進化のスピードが速い。従って、ウイルスを退治することは不可能。RNAウイルスでは、ヒトゲノム(DNA)の進化速度の約100万倍の進化速度を持つ。ウイル

スは遺伝情報のはやい変化により遺伝的多様性を急速に増大させることで生き残ってきた。

コウモリはコロナウイルスと共生していた(with コロナ)。ヒトがコウモリなどコロナウイルスと共生している野生生物と接触（ヒトが開発などで彼らの生息域に踏み込む）ことにより、ヒトが感染し、新型コロナウイルスが生まれ爆発的な流行を引き起こした。

生物は進化の過程で、ウイルスと共生することで進化してきた。ヒトも多くのウイルスと共存して共進化してきた産物である。哺乳類が胎盤を獲得したのは、ウイルスとの闘いで獲得したと言われている。

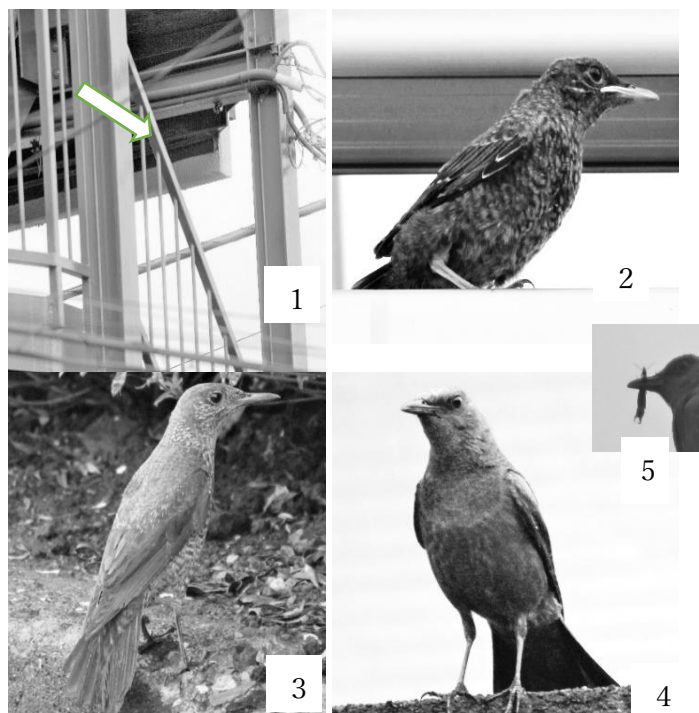
With コロナと収束/終息とは感染爆発を抑えることで、退治することではない。ウイルスは変異を続けるもの。人の間で流行していく限りこれからも新型コロナウイルスは変異を続ける。次号には感染爆発を防ぐには？気候危機を止めるには？を述べたい

(生物資源科学博士 宮地俊作)

身近な自然観察「イソヒヨドリの巣立ち」

梅雨入り間近の 6 月 5 日は朝から大忙しだった。

1 週間ほど前から自宅近くで、イソヒヨドリの鳴き声がたびたび聞こえた。今日こそはと朝 5 時にカメラを持って出かけると、ヒナらしい鳴き声が 2 か所から聞こえた。一方はアパートの階段（写真 1）、他方はマンションの植え込みの中から。植え込みから民家のベランダに飛んだのでカメラを向けるとヒナだ（写真 2）。



横一文字の黄色のくちばしが目立つ。親鳥はメス（写真 3）もオス（写真 4）も、私のことを警戒し、近くに寄ってきては盛ん「ケ・ケ・ケ」とか、「ピー・ピー」と繰り返す。どちらかが「警戒」で、他方が「ヒナを呼ぶ声」なのだろうか。巣のヒナに与えたのは「ハサミムシ」のようだ（写真 5）。親鳥たちはヒナが巣からでても餌を与えるが、そんな時も親子は特別の鳴き声で互いに呼び合うようである。

都会の野鳥はこのイソヒヨドリに限らない。春から夏が子育てシーズン、巣作り中は材料を運ぶ姿が見られ、①たびたび見かける、②餌をもった親がいる、③ヒナの声がする、などは子育て中のサインです。観察してみてください。ただ都会で育ったヒナたちは、再び都会で暮らすのか、それとも本来の自然に戻るのか心配になる。多様性を身に着けた種はどこかで生き残るが、自然の中でした生きられない種もある。私たちは自然を守り残す責任がある。（菅谷芳雄）

東京オリンピック開催とコロナ禍

東京オリンピック(以下五輪)が 7/23 開幕した。

「スポーツを通じて平和な世界の実現に寄与する」大会であるはずの五輪はコロナが蔓延し緊急事態宣言中に無観客で開催した。開会式会場前には「中止せよ」とのプラカードを掲げた人たちもいた。

第 5 波が到来の 7/20 ごろから、コロナ感染者が爆発的に急増し、変異株のデルタ株も増え続けて、感染者は 20 代 30 代の若い世代に多い。首都圏では最大を毎日更新した。

藤沢市では 2 ケタが続いている。7/29 は 55 人と過去最多となり緊急事態宣言が 8/31 まで発令された。

専門家である尾身会長も参議院で「危機感を共有されなければ感染は更に増大する、医療のひっ迫が更に深刻になる」と述べた。

病院などの医療従事者は毎日奮闘されている現状の中、五輪関係の感染者も受け入れざるを得ない。

菅義偉首相は 28 日、東京都で感染者が初めて 3 千人を超えたが、五輪との関係は明らかにしていない。ワクチンも国民に行きわたっていない現在の感染者数の急上昇も五輪と無関係と思えない。（次ページへ）

(つづき)

五輪大会関係者の来日による感染陽性者は 241 人 (7/31 現在) に及び、陽性のため辞退した選手もいる。

首都圏では医療機関は一般患者の入院を控え、手術などを先延ばしにしてコロナ感染者を優先入院させねばならず、また病床に空きがあっても看護師などのスタッフが不足し受け入れできない、まさにステージ 4 レベルの医療崩壊が始まっている。

ワクチンは輸入供給の配分で最初の予想とは違いたいへん不足している。クーポン券は届いても、接種会場の予約が取れず、やっと取れた予約は 10 月だったりそれ以降の人もいると聞く。

藤沢では 1 回目の接種は 107,620 回(78%)、2 回目の接種は 69,455 回(58%)(7/29 現在)であり神奈川県全体 72.9% よりも低い。

集団接種は湘南大庭公民館 藤沢市民会館 ココテラス湘南 湘南アイパークの 4 か所、8 月までの予約は受付終了しその後はワクチンが足りないため再開日を待つことになる。

メダル続出は良いのだが、酷暑の中、熱中症も心配され、五輪を絶対に中止しないと言う関係者の強い意志から、どれだけの国民が苦しんでいるか、コロナ対応への楽観的な見通しに、もっと「危機感を持つべき」と言いたい。
(荒井)



放射能測定値(市民計測)

(HORIBA Radi) 単位 ($\mu\text{Sv/h}$) 地上 50 cm

7/21 晴 市役所分庁舎前 0.086
7/21 晴 市役所本庁入口売店前 0.10

ECONET INFORMATION

▲原爆展 核兵器の怖さを知って!!

原爆パネル展示や署名活動

8 月 6 日(金) 16:00-17:00 辻堂駅北口デッキ

8 月 9 日(月) 16:00-17:00 藤沢駅サンパール広場

主催: ピースリレー・ふじさわ

☎090-9239-0864



▲ふじさわ不戦の誓い

平和を願ってトークや歌で訴えます

8 月 15 日(日) 16:00-17:00

辻堂駅北口デッキ

主催 ふじさわ・不戦の誓い実行委員会

☎090-9019-1350(植木)

▲藤沢母親大会 講演「核兵器廃絶と気候危機」

講師 武本匡弘さん(環境活動家)

9 月 5 日(日) 13:30-16:10

藤沢市民会館 第一展示ホール

資料代 500 円 問合せ 0466-26-1980

▲気候危機とCO2 排出削減計画

講師 歌川学さん

9 月 12 日 14:00-17:00

済美館(藤沢公民館分館) 学習室 B

主催 気候危機アクション藤沢

☎080-5099-4246

▲藤沢エコネットから

◆お詫びし訂正します 会費納入通知の口座番号が違っていました

正しくは【ゆうちょ銀行 加入者名 藤沢エコネット 口座番号 00240-9-46501】です

納入よろしくお願いいたします

◆会員募集 年会費・購読料→2000円

◆事務局会議 8 月 7 日(土) 10:00~
六会公民館

《編集後記》一株の稲の苗を容器で栽培したら見事に稲穂の花が咲きコメの収穫が楽しみだ。初めての事だがどんな味になるのか? 日照と気温が功を奏したのか。暑い日が続くが北海道旭川でも 38.4℃に達し過去最高、海外ではカナダで 6 月末に 49.6℃と異常な高温を記録、熱波で 295 人が突然死した。本腰を入れた温暖化対策を急いで策定を望む。(H)